

## 令和6年度 第2回 小平市地域公共交通会議 会議要録

### 1 日 時

令和6年12月20日（金）14時00分から15時13分まで

### 2 場 所

市役所3階 庁議室

### 3 出 席 者

小平市地域公共交通会議委員 13人

事務局（都市開発部 公共交通課） 3人

※傍聴者 5人

### 4 会議次第

(1) 開会

(2) 令和6年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績について（11月末現在）（報告）

(3) 小平南西部地域デマンド型交通に関するアンケート集計結果について（報告）

(4) コミュニティバスのダイヤ改正後の乗車状況について（報告）

(5) その他

・現状や取組状況等について（情報交換）

(6) 閉会

### 5 配布資料

・資料1 令和6年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績（11月末現在）

・資料2 令和6年度小平南西部地域デマンド型交通（乗合タクシー）の実証実験運行乗車実績（11月末現在）

・資料3 小平南西部地域乗合タクシーに関するアンケート集計結果

### 6 会議内容

(1) 開会

都市開発部長の挨拶、出席委員数及び資料の確認

新委員自己紹介、傍聴者の確認

(2) 令和6年度コミュニティバス・コミュニティタクシーの乗車実績について（11月末現在）

事務局から、資料1に基づき説明

質疑特になし

(3) 小平南西部地域デマンド型交通に関するアンケート集計結果について（報告）

事務局から、資料2、3に基づき説明

## 事務局

運行から6カ月が経過し、乗合タクシーの認知度や利用しない理由を確認することで乗合タクシーの改善点を把握し利用者数を増やす方策について検討するため、10月3日から11月3日までアンケートを実施した。アンケート用紙をタクシー車内や、南西部地域内の公民館や地域センター、郵便局、小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会の参加団体の自治会に配布した他、南西部地域の全自治会にQRコードから回答できるアンケートのチラシを配布した。

アンケートの集計結果として、乗合タクシーを知っているが利用したことがない人が9割程であった。乗合タクシーを利用しない理由として多かったのが、自転車や自動車など他の交通手段を使うから、目的地に行かないから、運行エリアが分かれているからであった。南西部地域で行きたい場所として、1番多かったのが市役所、2番は南西部地域にはない、3番は東大和市駅、4番は中央図書館、5番は中央公民館であり、市の中央エリアへの移動ニーズがあることが分かった。利用したことがある人のおすすめスポットとして挙げられていたのが、病院、クリニック、スーパー、公共施設であった。

アンケートの集計結果を12月に開催した小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会で報告し、改善策について検討を行った。検討の中で運行エリアを一つに統合することで鷹の台駅西側エリアからも、中央公民館、中央図書館等の市の中央エリアや新小平駅等へ行くことができるようになり、移動のニーズを満たすことが可能となる。また、毎日運行することで運行曜日による制限がなくなるとともに、乗合タクシーを目にする機会が増え、認知度が高まることで利用者数の増加が見込めるとの結論となった。

考える会での検討結果を受けて、現在二つに分かれている運行エリアを一つに統合し、南西部地域全域を一つの運行エリアとしたい。

## 会長

事務局から説明があったように、デマンド型交通の今後の予定として、運行エリアを変更するという運行形態の変更に関わることなので、協議事項といたします。

運行エリアを一つに変更することについて、何かご意見、ご質問はございますか。

## 委員

運行エリアを二つから一つにする際、タクシー車両の運行台数は1台で変わらないのか。運行エリアを一つにしたことで、朝の通院時間帯は予約が集中し、予約が取りづらくなることで利便性が低下するのではないか。

## 事務局

運行台数は1台で変わらない。運行エリアを一つにすることで、運行距離が長くなり、待ち時間が増えて乗車人数が減る可能性もあるが、移動ニーズが多い市の中央エリアや、これまでエリアが分かっていたために行くことができなかつた乗降場所も利用できるようになることで、まずは乗車人数が増えていくと考えている。

## 委員

乗車人数は延べ人数ではなく、実人数は何人か。また、一人当たりの市の負担額は幾らになるのか。

## 事務局

11月末現在、延べ415人の乗車があったが、実人数は66人である。利用者の中には週に2回利用するヘビーユーザーもいる。市の負担額については、現時点では算出できない。年度末の実績報告により、運行経費と運賃収入の差額が市から運行事業者への補助金になるが、現時点では乗車人数が少ないので、当初の予算額よりも市の負担額は増えてくる。令和6年度のデマンド型交通の予算額は導入経費も含め、1千200万円程である。

## 委員

運行エリアの変更に伴う、国土交通省への手続きや、運行事業者の準備、周知期間など、今後のスケジュールはどうなっているか。

## 事務局

国土交通省へは運行開始日までに運行計画の変更の届出を出すことが必要であると確認しており、運行事業者と調整しながら手続きを進めていく。1月20日から運行エリアを一つにすることから、1月20日号の市報で周知・PRを図っていく。また、市ホームページやSNSの他、公共施設へのチラシの配布や、南西部地域においてチラシの戸別配布を行う予定である。

### (4) コミュニティバスのダイヤ改正後の乗車状況について（報告）

#### 運行事業者から説明

令和6年10月1日にダイヤ改正を行った。ダイヤ改正の理由は令和6年4月からの改善基準告示への対応や、運行開始以来ダイヤ改正をしていない中、高齢者の利用が増えており、利用者も高齢化して乗降に時間が掛かるようになったことから、定時性、安全性が担保できない状況への対応である。1回の運行が35分弱で5分休憩し、2台の車両で運行することで20分間隔の運行を維持していたが、厳しい状況であった。

ダイヤ改正前は運休日無く毎日運行しており、1日37便あったが、平日は28便へ、土休日は24便へ減便した。減便により平日の便数は25%程減少し、土休日は35%程減少した。10月の1日平均乗車人数は、令和5年度が15.7人で、令和6年度は20人弱であった。11月の1日平均乗車人数は、令和5年度が15.0人で、令和6年度は17.8人であった。1時間に3便から2便へ減便したことで、1便当たりの乗車率は上がっている。運賃収入は、令和6年10月が令和5年度同月に比べ10%程減少しており、11月は15%程減少している。

ダイヤ改正により、時間に余裕を持った運行ができるようになったことから、乗務員からは好評である。利用者からは車内が混雑している、座れなくなったという意見はあるが、満員で乗れなくなったことはない。安全性や定時性が担保されるようになり、効率良い運行ができるようになった。

## 会長

運行便による乗車人数の差はあるか。

**事務局**

乗車が1番多いのは、朝夕の1時間に3便運行している時間帯ではなく、11時台である。高齢者が出掛ける時間帯と重なるためと認識している。ダイヤ改正前も後も11時台の乗車が1番多くなっており、令和5年度、6年度とも10月、11月については、11時台の乗車が1番多い。

**委員**

運行事業者へダイヤ改正に関する意見は来ているか。

**事務局**

車内が混んでいる、座れなくなったとの意見があった。

**(5) その他**

- ・現状や取組状況等について（情報交換）

**(6) 閉会**

**会長**

それでは本日予定していた議事は全て終了し、以上で令和6年度第2回小平市地域公共交通会議を閉会とする。

長時間にわたり活発なご議論をいただき、ありがとうございました。